



入所者様の楽しそうな様子を見守る職員

春爛漫
寒かった冬も終わり、桜の花も咲き始めました。
双葉苑の桜も満開で、入所者様はもちろん、職員も春の訪れを楽しませてもらっています。

ふたばよもやま話 (第二十六回)

～巖流島の決闘～

宮本武蔵と言えば、必ず出てくるのが佐々木小次郎ではないでしょうか？

日本の決闘の中でもとくに有名なのが巖流島の決闘ですが、この話、ある有名な小説家の影響を多く受け、史実とは違った内容になり、今に伝えられています。

小次郎は若き青年剣士として描かれていますが、実際はかなりの高齢者だったと言われています。

武蔵は岡山県の生まれということははっきりしていますが、小次郎の関しては諸説あります。

その中で最近注目されているのが、英彦山の生まれで巖流というのも、英彦山の麓のある岩石山（がんじゃくさん）という山にちなんだ名前です。

嘉穂地方には小次郎が住んだという言い伝えもあり、ロマンあふれる伝説が福岡県北部には伝えられています。



職員紹介コーナー

平成26年に入職、今年で勤続年数12年目となるのが小野純平さんです。
小野さんは、施設全体の清掃業務を担当で、熱心に仕事に取り組み姿勢は、入所者様はもちろん、職員全体に安心と快適を提供してくれます。
「ご利用者様から、小野くんいつもきれいにしてくれてありがとうね」と言われるのがうれしく、また仕事に対しての励みになると本人からの言葉でした。
いつも笑顔で絶やさず、居室はもちろん、フロアや廊下、トイレから玄関に至るまできれいにしてくれる小野さんは、双葉苑にはなくてはならない存在です。



入職おめでとうございます

入所者様の癒しとなるよう、頑張ってください



今月の予定 (4月)

ますゆき皮膚科回診

3日(木)

小倉北歯科回診 (毎木曜日)

3日、10日、17日、24日

石橋医院回診 (毎月曜日)

7日、14日、21日、28日

ビューティヘルパー

16日(水)

生花

23日(水)

花見

随時

【編集雑記】▼正月を迎えた後、瞬く間に春となった。春と言えば桜であり、双葉苑の桜も咲き誇り入所者様を楽しませている▼日本人は桜が大好きである。厳しい冬を乗り越え、温かい春がやってくるというウキウキ感が背景にはあるといえど、パツと咲き、そして惜しげもなく散っていくという潔さが日本人には好まれるのだらう▼忠臣蔵の元になった元禄赤穂事件も時は春であり、浅野内匠頭が切腹するシーンには必ず桜の背景がある。旧日本海軍の軍帽には桜と錨がデザインされ、特攻隊が出撃するシーンには桜が描かれることが多い。靖国神社と言えは桜というイメージが強く、良きに悪しきにつけ、日本人と桜は切っても切り離せない樹木と花である▼奈良の吉野山の桜、京都の醍醐寺の桜など、日本には古くからの桜の名所があるが、江戸時代以前の花見は、上流社会だけに許された文化だったようだ。花見が庶民の楽しみとして盛んになったのは、江戸時代、それも元禄の頃からで、まさに忠臣蔵の時代のような▼江戸の桜のことは、そのほとんどが吉野山から移植されたものと言われ、各地の殿様が参勤交代のとき、領地の桜を江戸に持ってきて品種の交流が行われたという説がある。外様大名を経済的に苦しめた参勤交代であるが、街道の整備、文化の交流、経済の活性化など国の発展に果たした役割も多く、桜の木の品種改良もまた隠れた効果の一つだったかもしれない▼私見ではあるが、日本には三つの「区切り」があると感じる。一つは正月で、新しい年をむかえ、神様への感謝と加護、盆は精霊や先祖への感謝と供養、これは仏に対する思いである。最後の一つは春、それも桜の時期四月、これは人間自信の区切り、けじめとして新年度という考え方である▼何事もけじめがないとだらだらになる。桜に浮かれるのみでなく、新たな気持ちで過ごしていきたいと思う。